

公益財団法人大学コンソーシアム京都

第1 法人の概要

1 代表者

理事長 吉田美喜夫

2 所在地

京都市下京区西洞院通塩小路下ル東塩小路町 939 番地

3 電話番号

075-353-9100

4 ホームページアドレス

<http://www.consortium.or.jp/>

5 設立年月日

平成10年3月19日

6 基本財産

100,000千円（うち本市出えん額 50,000千円，出えん率 50.0%）

7 事業目的

京都地域を中心に，大学間連携と相互協力を図り，加盟する大学・短期大学の教育・学術研究水準の向上を目指すとともに，学生の成長を促進するための学生支援，大学の国際化を推進するための国際連携・国際交流等の充実に努める。併せて，地域社会，行政及び産業界との連携を促進し，地域の発展と活性化に努め，京都地域を中心とした高等教育の発展と国際社会をリードする人材の育成を目指す。そのために，多様な連携に基づく教育，学生支援，研修，調査・研究，情報収集，情報発信，交流促進等を行い，日本の高等教育の発展に寄与することを目的とする。

8 業務内容

- (1) 単位互換，インターンシップ等の教育に関する企画調整事業
- (2) 学生に対する支援事業
- (3) 教職員に対する研修交流事業
- (4) 国際連携，国際交流事業
- (5) 大学と高等学校等との連携による企画調整事業
- (6) 大学と地域社会，行政及び産業界との連携による調査研究事業
- (7) 大学と地域社会，行政及び産業界との情報発信交流事業
- (8) 大学と地域社会，行政及び産業界との連携等による生涯学習事業
- (9) 全国各組織との連携による企画調整事業
- (10) その他目的を達成するために必要な事業

9 所管部局

総合企画局総合政策室（TEL075-222-3103）

10 役員名等

(1) 理事長

吉田美喜夫

(2) 副理事長

大城光正，木越康

(3) 専務理事

桂良彦

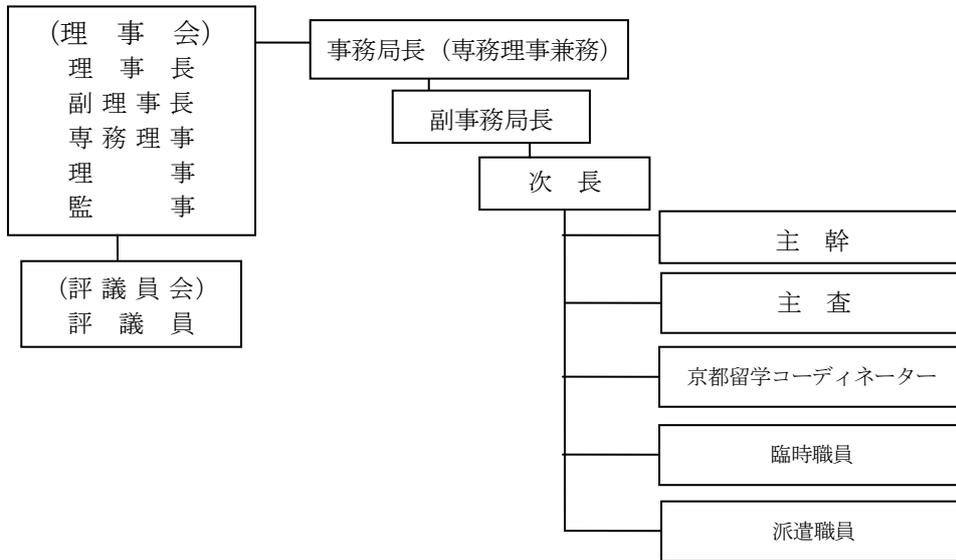
(4) 理事

篠原総一，林忠行，細川友秀，細川涼一，入澤崇，藤原正行（総合企画局長）

(5) 監事

足立好弘，和田一郎

- 11 常勤職員数
48人（うち本市派遣職員3人）
- 12 組織機構



第2 経営状況

1 平成29年度決算

(1) 事業報告

ア 教育事業

(イ) 単位互換事業

- a 包括協定大学数 46 大学
- b 提供科目 435 科目
- c 履修者数 2,400 人

(ロ) 生涯学習事業（京カレッジ）

- a 科目提供大学数 30 大学 2 機関
- b 提供科目数 276 科目
- c 出願者 延べ1,679 人

イ インターンシップ事業

(イ) インターンシップ事業

- a ビジネス・パブリックコース
(受入登録団体 198 団体, 出願者数 461 人, 受講者数 341 人)
- b プロGRESSコース (受入登録団体 15 団体, 出願者数 44 人, 受講者数 37 人)

ウ 教育開発事業

(イ) FD (ファカルティ・ディベロップメント) フォーラム事業

- a 第23回FDフォーラム (3月3日, 3月4日, テーマ「FDのこれまでと, これから～多様な角度からFDについて考える～」於: 京都産業大学, 参加者数 651 人)
- b 京都FD執行部塾
6月24日, 参加者数 54 人
- c 京都FDer塾×大学教育パワーアップセミナー合同企画 (1月20日, テーマ「高等教育行政の動向と「三つの方針」に基づく大学教育改革」於: キャンパスプラザ京都, 参加者数 88 人)
- d 新任教員FD合同研修 (9月16・17日, 参加者数 9 人, 2月17・18日, 参加者数 13 人)

- e 教育 IR フォーラム (7月30日, テーマ「変革する大学! 「学修成果の可視化」から教育・授業を変える」, 参加者数219名)
- (イ) SD (スタッフ・ディベロップメント) 事業
 - a 大学職員共同研修プログラム (計5回, 参加者数延べ118人)
 - b 第15回SDフォーラム (10月22日, テーマ: 「AI時代の大学職員」, 参加者数154人)
- (ウ) 京都高大連携研究協議会の運営
 - a 「第15回高大連携教育フォーラム」 (12月9日, テーマ: いま育成すべき力は何かをともに考える～高等学校・大学の役割～於: キャンパスプラザ京都, 参加者数210人)
 - b 高大連携フューチャーセッション (2月24日, 於: 市民交流プラザふくちやま, 参加者数45名)
 - c キャリア教育企画 (まるっとく, ワーク・ライフトーク) (計2回参加者数延べ75名)
- エ 学生交流事業
 - (ア) 第15回京都学生祭典
(10月8日, 来場者数: 約13万6000人 ※実行委員会調べ)
 - (イ) 第20回京都国際学生映画祭
(11月25日～12月1日, 応募作品485本[国内129作品・海外356作品], 来場者数延べ507人 ※実行委員会調べ)
 - (ウ) 障害学生支援事業
 - a 第19回関西障害学生支援担当者懇談会 (9月12日実施, 参加者67人)
 - b 第20回関西障害学生支援担当者懇談会 (2月22日実施, 参加者58人)
 - c ノート・パソコンタイカー養成講座 (初級編) (9月13日実施, 参加者22人)
 - d パソコンタイカー養成講座 (初級編) in 同志社大学 (3月8日実施, 参加者26人)
 - e 勉強会「障害学生支援における施設対応～アクセシビリティを考える～」(3月2日実施, 参加者16名)
- オ 国際連携事業
 - (ア) 龍谷大学メルボルン短期留学プログラム (21人)
 - (イ) TOEFL 講座の実施 (41人), IELTS 講座の実施 (38人)
 - (ウ) 英語で京都をプレゼンテーション (上級編21人, 中級編14人)
 - (エ) 短期留学生受入プログラムの実施 (夏期10人, 冬期24人)
 - (オ) 大学職員対象英語研修プログラム開発及び実施 (計6回, 延べ90人)
 - (カ) 京都地域留学生住宅保証事業・支援事業 (23人)
 - (キ) 留学生スタディ京都ネットワーク事業 (年度末加盟数100機関)
 - (ク) 留学生就職支援・交流コミュニティ運営事業 (年度末会員数155人)
- カ 調査・広報事業
 - (ア) 調査事業
 - a 大学のまち京都・学生のまち京都推進会議 (9月22日, 2月1日実施)
 - b 次期中期計画策定 (「第4ステージの事業検証と第5ステージに向けた検討課題について」)
 - c 指定調査課題
加盟校所属の教職員による調査研究 (1件) を実施するとともに, 調査研究成果の報告会及び交流会を実施 (3月20日実施, 成果報告会参加者18名)
 - d 京都B&Sプログラム (27校・3,287名)
 - e 「共通指標」に基づく財団基礎データ収集の継続実施
 - (イ) 広報事業
 - a 財団ホームページ・Facebookによる情報発信
 - b 京都学生広報部の専用WEBサイト「コトカレ」による情報発信
 - c 定期刊行物の発信

会報の発刊（年1回）、Informationの発刊（年1回）

(ウ) 都市政策研究事業等

a 京都から発信する政策研究交流大会

（口頭発表56組、パネル発表16組、来場者352名）

b 学まちコラボ事業

京都市との協働により、大学・学生と地域が連携する取組に助成金を交付

（応募31件（一般枠27件・文化枠4件）、採択20件（一般枠17件・文化枠3件））

c 「学まち連携大学」促進事業

京都市との協働により、地域と連携しつつ学生が学ぶ機会を創出する大学組織としての取組に助成金を交付（採択6大学）

d 大学・地域連携サミット

京都市との協働により、各大学における地域連携の事例や、学まちコラボ事業、区役所のまちづくり支援事業での取組を広く発信する事業（参加者：136人）

e 「大学の知」を活かした多角的な市政研究事業

京都市との協働により、「文化を活かした京都の活性化」について、4つの分野別テーマを研究する複数のユニットから成る研究グループが多角的な観点から分析・考察を実施

キ 総務事業

(ア) 全国大学コンソーシアム協議会事務局運営

a 第14回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの開催・運営

於：沖縄科学技術大学院大学（10月7・8日、参加者263人）

テーマ「大学コンソーシアムとボランティア」

b 協議会運営委員会の運営（3回）、幹事会（2回）、総会（1回）

c 協議会の組織管理と経理処理

d 第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの準備

(イ) 勤労学生援助会事務局運営

a 理事会・総会（1回）、選考委員会（1回）の開催

b 表彰・奨学金贈呈式（20大学・短大の20名を表彰）

(ウ) 公益財団法人組織運営

a 理事会（8回）、評議員会（4回）、会員総会（1回）開催

b 財団資料の作成（事業概要等）

(エ) 施設管理運営

a 京都市大学のまち交流センターの指定管理

b 京都市大学のまち交流センター6階「大学院等共同サテライト拠点」の管理運営

(2) 財務諸表

貸借対照表
平成30年3月31日現在

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	178,115	167,540	10,575
未収金	36,639	35,885	755
立替金	114	400	△286
前払費用	571	562	9
仮払金	105	10	95
流動資産合計	[215,544]	[204,397]	[11,147]
2. 固定資産			
(基本財産)			
基本財産普通預金	0	405	△405
基本財産投資有価証券	100,000	100,000	0
基本財産合計	(100,000)	(100,405)	(△405)
(特定資産)			
財団拡充普通預金	11,908	11,908	0
留学生支援事業積立金	16,000	24,000	△8,000
教育設備・機器等整備普通預金	7,926	17,742	△9,817
財団拡充投資有価証券	0	30,000	△30,000
教育設備・機器等整備有価証券	30,000	30,000	0
情報環境整備定期預金	30,000	0	30,000
留学生受入環境充実投資有価証券	30,000	0	30,000
特定資産合計	(125,834)	(113,650)	(12,184)
(その他固定資産)			
構築物	134	419	△285
設備造作	1,517	1,555	△38
什器備品	24,966	22,354	2,612
無形固定資産	6,352	5,866	486
投資有価証券	20,000	20,000	0
その他固定資産合計	(52,970)	(50,195)	(2,775)
固定資産合計	[278,804]	[264,250]	[14,554]
資産合計	494,348	468,647	25,701
II. 負債の部			
1. 流動負債			
リース債務	8,629	6,018	2,610
未払金	30,826	28,073	2,753
前受金	11	44	△33
社会保険料預り金	1,623	765	858
源泉所得税預り金	283	281	2
住民税預り金	282	305	△22
仮受金	110	229	△119
流動負債合計	[41,764]	[35,715]	[6,049]
2. 固定負債			
退職給付引当金	4,195	4,279	△84
固定負債合計	[4,195]	[4,279]	[△84]
負債合計	45,959	39,994	5,965
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	[100,000]	[100,405]	[△405]
(うち基本財産への充当額)	(100,000)	(100,405)	(△405)
2. 一般正味財産			
一般正味財産合計	[348,389]	[328,248]	[20,141]
(うち特定資産への充当額)	(125,834)	(113,650)	(12,184)
正味財産合計	448,389	428,653	19,736
負債及び正味財産合計	494,348	468,647	25,701

正味財産増減計算書

平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	610	205	405
特定資産運用益	1	1	0
その他資産運用益	0	0	0
受取入会金	50	0	50
受取会費	166,509	165,509	1,000
事業収益	39,852	42,722	△2,870
指定管理者事業収益	170,674	170,674	0
受取補助金等	1,118	935	183
受取運営分担金	51,453	40,497	10,955
雑収益	309	292	17
経常収益計	430,575	420,835	9,740
(2) 経常費用			
事業費	378,742	379,259	△517
管理費	31,673	27,588	4,085
経常費用計	410,415	406,847	3,568
当期経常増減額	20,160	13,988	6,172
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	20	0	20
当期経常外増減額	△20	0	△20
当期一般正味財産増減額	20,141	13,988	6,153
一般正味財産期首残高	328,248	314,260	13,988
一般正味財産期末残高	348,389	328,248	20,141
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△405	0	△405
指定正味財産期首残高	100,405	100,405	0
指定正味財産期末残高	100,000	100,405	△405
III. 正味財産期末残高	448,389	428,653	19,736

2 平成30年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 教育事業

(ア) 単位互換事業

量から質への転換に取り組む中、「京都世界遺産 PBL 科目」について、よりプログラム内容を充実させ、参加大学・学生を拡充していく制度的整備を行う。また、科目全体についてガイドラインに基づいた質の高い京都らしい学びの科目提供と、その学生広報を強化する。

(イ) 生涯学習事業

受講希望者の増加に対応するため、大学リレー講座と京都学講座の1日2回講義制による定員拡大を継続し、京カレッジ生への加盟校の教育研究活動のPRとさらなる市民への学習機会の提供を促進する。

(ウ) インターンシップ事業

学生の成長を目的として、単位認定を行う大学と連携した「教育プログラム」を使命に、質の高い実習を提供するべく受入先の確保に努める。また、事業開始20周年であり、長期にわたり継続して学生の受入れに実績のある団体への表彰や、加盟校への当該団体情報の周知を行い、持続的に優れた受入先の確保・拡大の仕組みを強化する。

イ 教育開発事業

(ア) FD 事業

FDの義務化から約10年が経過し、FDフォーラムが2020年度に第25回を迎えること、更に次期中期計画の第5ステージプラン策定期間にもあることから、当財団のFD事業全体を見据えた仕組みの検討などFD事業の在り方を見直す取組の検討を行う。

(イ) SD 事業

大学職員共同研修プログラム、SDフォーラム、SDゼミナールを実施する。スケールメリットを生かして、スキルアップや知識の習得はもちろん、人的交流も積極的に行っていく。

(ウ) 京都高大連携研究協議会事業

a 高大連携教育フォーラム

高校・大学間の連携・接続教育問題における国内最新動向の情報共有、事例研究や京都における取組の情報発信に一定の評価を得ており、「高大接続システム改革」の動向を見据え、高校、大学双方が集まり、交流の図ることができる企画を検討していく。

b 高大連携キャリア教育

これまでの取組で得た成果をもとに、生徒ではなく高校教員を対象にしたプログラム等、より効果的なプログラムを検討していく。

ウ 学生支援事業

(ア) 京都学生祭典

「学生のまち京都」ならではの学生の力を集結させ、京都の地域活性と「大学のまち京都」を全国に発信することを目的に、第16回京都学生祭典を10月7日に開催する。京都学生祭典の企画・運営は学生による実行委員会が担い、行政、経済界、大学、地域が連携した組織委員会が「オール京都」体制で支援していく。学生で組織する実行委員会は、10月に主催する祭典当日の企画・運営だけでなく、1年間を通して、地域交流や年間交流活動を行い、「大学のまち京都・学生のまち京都」の魅力を発信していく。

(イ) 京都国際学生映画祭

京都から、学生映画監督の発掘と国際的な映画人材の交流、映画文化の発信を目的に、第21回京都国際学生映画祭を11月に開催する。学生による実行委員会が、映画に詳しい大学教員や実務家からのアドバイスを受けながら、コンペティション募集による入選作品の選定、映画祭での上映、授賞式でのグランプリ作品の表彰までの祭全体の企画・運営を行う。

(ウ) 障がい学生支援事業

「障害者差別解消法」の施行を受け、各大学における障がい学生支援担当者のネットワークを構築するため、「関西障がい学生支援担当者懇談会」を年2回開催し、担当者同士が意見交換を行える場を創出する。また、学生へは、聴覚障がい学生の情報保障の一つであるノートテイク、PCテイクの理解やスキル向上を目的に、ノートテイク養成講座、パソコン(PC)テイク養成講座を提供する。

エ 国際事業

(ア) 国際連携事業

a 学生派遣プログラム

既存の協定関係をいかして短期派遣プログラム（メルボルン）を実施する。

b 英語で京都をプレゼンテーション

京都の奥深い魅力を体験し、その魅力を英語で伝えられる能力を養成する研修を実施する。上級・中級それぞれのプログラム内容の充実を図るとともに、受講後の語学力を活かした活躍機会の増加についても検討する。

c 語学修得支援講座

交換留学等の語学要件を満たす語学力養成のため、TOEFL や IELTS の語学修得支援講座等を行い、加盟校学生の留学促進を目指す。

d 大学職員対象英語研修プログラム

大学のグローバル化に対応するため、教職員向けの英語研修を実施する。

(イ) 留学生スタディ京都ネットワーク

大学コンソーシアム京都が事務局となり、加盟大学、日本語学校・専修学校等の教育機関、企業、関係業界団体、関係公的機関等によるオール京都の留学生誘致・推進体制「留学生スタディ京都ネットワーク」を運営する。

(ウ) 短期留学生受入事業

平成26年度に開発した英語による短期留学生受入プログラムを、京都市との協働により年1回（冬季）実施する。

(エ) 京都地域留学生住宅保証事業・支援事業

京都地域における留学生受入支援のため、住宅支援事業を実施する。

(オ) 留学生就職支援・交流コミュニティ運営事業

文部科学省からの採択を受け、留学生の就職及び交流を支援するコミュニティを運営する。

オ 調査・広報事業

(ア) 次期中期計画策定

大学政策委員会での議論を踏まえ、新たに「次期ステージプラン策定委員会」を設置し、2019年度からの5年間を期間とする第5ステージプランの検討・策定を行う。

(イ) 調査企画事業

平成27年度に作成した財団事業の実績を客観的に点検する共通指標を用いたデータの収集を継続して実施し、蓄積データの分析を行うとともに、財団における事業分析に活用していく方法を検討する。

(ウ) 広報事業

広報機能をより強化するため、業者と連携したHPのスムーズな更新処理やHP解析に加え、各事業部における事業の速報などFacebookにより積極的に発信する。京都広報部による情報サイト「コトカレ」のメインターゲットである中高生の閲覧者獲得に向け、魅力あるコンテンツの制作を行うとともに、イベントへのブース出展や中高生との交流事業なども積極的に行う。

(エ) 都市政策研究事業

学生・大学院生に政策研究の成果発信の場を提供し、日頃の活動の成果の発表を通じて交流を深め、都市政策に活かすことを目的に「京都から発信する政策研究交流大会」を継続

して開催する。

(オ) 地域連携事業

a 学まちコラボ事業

大学の知や学生の活力をいかした課題解決や地域活性化を目的として、大学と地域との連携による取組に対して助成金を交付する事業を実施する。

b 「学まち連携大学」促進事業

京都市内にキャンパスを有する大学を対象に、大学を挙げて地域と連携した教育プログラムを開発・実施する取組を支援する事業を実施する。

カ 総務事業

(ア) 全国大学コンソーシアム協議会事務局運営

第15回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムの開催・運営（於：公立はこだて未来大学，9月1・2日，テーマ「大学連携による学生と地域のエンパワーメント～未来の地域づくりを目指して～」）

(イ) 勤労学生援助会事務局運営

15大学・短大15名を表彰予定

(ウ) 公益財団法人組織運営

安定的な財団運営を目指す。

(エ) 施設管理運営

京都市大学のまち交流センター（キャンパスプラザ京都）の指定管理者として、適正な施設管理・運営を行い、京都市とも連携しながら利便性と稼働率の向上に取り組む。

(2) 予算

正味財産増減予算書
平成30年4月1日～平成31年3月31日

(単位：千円)

科 目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	205	205	0
特定資産運用益	1	1	0
その他資産運用益	0	0	0
受取入会金	0	50	△50
受取会費	166,344	166,509	△165
事業収益	41,099	41,292	△192
指定管理者事業収益	170,674	170,674	0
受取補助金等	984	1,118	△134
受取運営分担金	37,500	54,000	△16,500
雑収益	330	367	△38
経常収益計	417,137	434,215	△17,079
(2) 経常費用			
事業費	383,277	392,132	△8,855
管理費	27,117	33,966	△6,849
経常費用計	410,393	426,098	△15,704
当期経常増減額	6,743	8,118	△1,374
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	6,743	8,118	△1,374
一般正味財産期首残高	336,366	328,248	8,118
一般正味財産期末残高	343,109	336,366	6,743
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	100,000	100,405	△405
指定正味財産期末残高	100,000	100,405	△405
III. 正味財産期末残高	443,109	436,771	6,338

(参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H27 (決算)	H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (予算)
正味財産増減計算書	経常収益	418,497	420,835	430,575	417,137
	当期経常増減額	19,622	13,988	20,160	6,743
	当期正味財産増減額	19,622	13,988	19,736	6,743
貸借対照表	総資産	458,088	468,647	494,348	
	総負債	43,423	39,994	45,959	
	正味財産	414,665	428,653	448,389	

(参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H27 (決算)	H28 (決算)	H29 (決算)	H30 (予算)
委託料	大学のまち交流センター管理及び事業 (指定管理)	170,674	170,674	170,674	170,674
	大学生の就職等に関する意識調査	2,495			
その他	年会費	500	500	500	500
	未来の京都創造研究事業	13,751			
	海外留学派遣プログラム開発支援事業	4,100			
	短期留学受入プログラム開発業務	3,000	3,000	3,000	2,000
	大学地域連携創造・支援事業	4,548	5,026	5,739	6,500
	大学のまち京都・学生のまち京都推進会議	500	500	500	500
	「大学のまち京都」学生プロモーション	2,250	2,500	2,500	2,500
	大学の知を活かした多角的な市政研究事業		5,696	4,776	
	「学まち連携大学」促進事業		18,989	29,965	16,000
	京都留学コーディネータ採用等業務	4,865	4,787	4,973	5,000
	大学のまち京都・学生のまち京都次期推進策定業務				5,000

第3 経営評価結果

1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none">平成28年度に続き、平成29年度も黒字となっており、事業の選択と集中、業務の効率化による経費節減など、損益の改善に向けた取組の成果が認められる。
事業面	<ul style="list-style-type: none">「単位互換事業」や「インターンシップ事業」などのパイロット的事业において、着実に成果を挙げている。また、本市との協働により、「大学地域連携創造・支援事業（学まちコラボ事業）」や「学まち連携大学促進事業」に取り組むなど、本市施策「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に大きく寄与している。

2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none">5期連続して当期正味財産増減額の黒字を続けており、損益面では安定した経営を続けている。
事業面	<ul style="list-style-type: none">事業の選択と集中により、効率的に事業を実施するとともに、より多くの学生の参加を促し、行政や大学、企業、地域団体等との連携を進めることで、引き続き、「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進に取り組んでほしい。